

水の上の新都心へ、 中之島線が開業します。

平成20年10月19日(予定)に開業する中之島線は、大阪の文化・ビジネスの中心地“中之島”を東西に貫く新路線です。新たな交通動脈として中之島エリアの利便性を向上させるだけでなく、沿線の再開発が促進されるなど、関西経済活性化の切り札としても期待を集めています。

関西経済活性化への期待が高まる

大阪市のほぼ中央に位置し、堂島川と土佐堀川に囲まれた東西約3kmの中州である中之島は、水都・大阪を象徴するエリアです。

中之島線は、京阪本線天満橋駅から分岐して、その中之島を東西に走る新路線です。開通によって誕生する新駅は、大阪の国際都市としての機能が集中する終着駅の「中之島駅(大阪国際会議場)」をはじめ、梅田地区に向かう南の玄関口として期待される「渡辺橋駅」、大阪市役所、日本銀行などが立ち並ぶ大阪の心臓部「大江橋駅」、緑豊かな中之島公園内にある「なにわ橋駅」の4つです。

当社では中之島線の開業にともなって、京阪線(京阪本線・中之島線・鴨東線・交野線・宇治線)のダイヤを全面改定し、中之島駅～出町柳駅間を新型車両「3000系」で直通運転する「快速急行」を新設。「中之島エリア」と、国際観光都市である京都の中心地「祇園・清水エリア」や「洛北の玄関口」を一本の鉄道路線で結びます。

中之島および周辺エリアでは、中之島線の開業にあわせて数多くのビッグプロジェクトが進められています。代表的なものでは、朝日放送新社屋とABCホールを核施設とした複合都市開発「ほたるまち」、34階建ての超高層マンション「N4.TOWER」、最先端のオフィスタワー3棟を建設する「関電・ダイビル共同開発」、朝日新聞大阪本社やフェスティバルホールなどを高さ200mのツインタワーに建て替える「朝日新聞グループ再開発」です。これらに加えて「国立国際美術館」をはじめとする文化施設や、水都・大阪の復活の拠点となる「八軒家浜船着場」なども整備され、中之島は文化とビジネスが融合した、ますます魅力的な新都心へと進化しています。新たな鉄道ネットワークの充実を可能にする中之島線は、中之島エリアの利便性の向上と鉄道へのモーダルシフトによる道路環境の改善を実現するとともに、中之島西部地区を中心とした沿線の再開発の促進によって、関西経済活性化への期待を担っています。

中之島線を走る
新型車両「3000系」

